

平成 27 年度 事業計画書

日本河川・流域再生ネットワーク

自 平成 27 年 4 月 1 日
至 平成 28 年 3 月 31 日

会員及び海外連携機関との協働を基本に、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じて、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に貢献し、国内外のネットワークの拡大を図ります。

平成 27 年度は、ネットワークに求められる繋げ役及び触媒的な機能を担いながら、河川再生に関わる情報共有基盤の更なる強化、河川再生の普及・啓発に向けた行事開催や調査研究、また国内外関係団体との協働活動に取り組み、河川再生の更なる推進に寄与する新たな価値を創出してまいります。

【1】 河川再生に関わる情報共有基盤整備

河川再生のポータルサイトとして、全国の河川再生活動に役立つ有益な情報を、会員及び海外連携機関の協力を得ながら集約し、それらをホームページやソーシャルメディア（随時更新）、ニュースメール（毎週配信）、ニュースレター（毎月発行）等を通じて広く社会一般に発信し情報循環を図ります。特に平成 27 年度は、全国の河川再生事例の集約とホームページでの公開に注力します。

また、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の一員として、ARRN ホームページの運営・管理を担い、ARRN 活動成果やアジアにおける河川再生関連情報の普及に努めます。



JRRN web
随時更新

JRRN facebook
随時更新

JRRN newsletter
毎月発行

JRRN news mail
毎週発行

ARRN web
不定期更新

※JRRN ホームページからすべてにアクセスが可能：<http://www.a-rr.net/jp/>

【2】河川再生の普及・啓発に向けた行事等の実施

河川再生の普及・啓発、情報交換や交流、技術向上を目的とした行事を企画開催します。

(1) 「桜のある水辺風景 2015」写真公募と写真集制作・普及

水辺の美しさや人々との関わりについて考えるきっかけづくりを目的として、平成 27 年に撮影された「桜のある水辺写真」を一般より募集し、写真集としてとりまとめ普及します。



「桜のある水辺風景」写真集

(2) 講演会や研修会等の開催

河川再生の普及・啓発、国内外の河川再生に関わる最新情報や知見の共有、また技術向上を目的とした講演会や研修会等を開催します。

平成 27 年度は、河川再生の更なる推進に向けて、昨年度に制作・発行した「できることからはじめよう 水辺の小さな自然再生事例集」を活用した研修会や有識者による意見交換会等を開催します。また、世界工学会議において開催するシンポジウム「河川技術が果たすイノベーションと社会貢献（仮）」の実行委員会の構成員として、日本が培った河川再生の知見の普及に努めます。

なお、これらの成果は講演録や報告書などでホームページに公表し普及します。



講演会・技術交流会・シンポジウム等の講演録や報告書（過去の主な成果）

【3】河川再生に関わる調査研究

(1) 水辺の小さな自然再生の普及促進

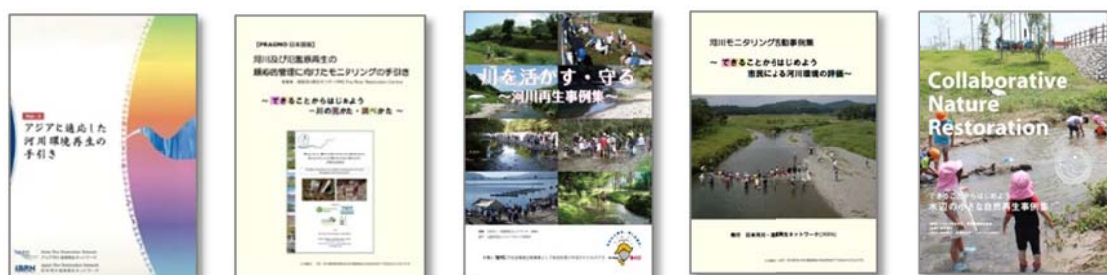
身近な川での自然再生への市民参加を促し、市民と河川管理者の連携による川づくり・地域づくりを推進することを目的に、昨年度に引き続き、水辺の小さな自然再生を主テーマに、その考え方や実施に際しての留意点、優れた事例から得られる知見等を全国に普及するための人材育成や情報共有の仕組みのあり方について研究します。

【2】日本が培った河川再生に関わる知見の海外普及に関わる調査研究

日本が培った河川再生に関わる技術や経験の海外普及を目的に、これまでのネットワーク活動成果や会員の協力を得ながら、これら知見の見える化を図るための方策を研究します。またその結果を生かし、河川再生に関わる国際行事への参加等を通じて本分野の日本のプレゼンス向上に努めてまいります。

【4】河川再生に関する冊子等の発行

河川再生の普及・啓発を目的に実施した行事等の成果、及び調査研究の成果を冊子として取りまとめ、全国への普及に努めます。



調査研究成果の発行物（過年度までの主な成果）

【5】河川再生の推進に向けた国内外団体の支援や協働

JRRN 会員や ARRN 会員を含む河川に関わる国内外の諸団体が取り組む公益的な活動に対し、企画や行事の運営・開催、広報等に協力しながら、河川再生の更なる推進に寄与する新たな価値を協働活動を通じて生み出していきます。

<今年度予定している主な国内活動>

団体名	支援・協働内容
全国の市民団体等（JRRN 団体会員）	行事や諸活動の企画、運営、広報等
筑波大学白川（直）研究室『川と人』ゼミ	河川市民団体研究等に関わる協働
水の巡回展ネットワーク(jawanet)	巡回展の企画運営協力

<今年度予定している主な海外活動>

団体名	支援・協働内容
アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)	「10 th ARRN 運営会議」企画運営協力 「12 th 水辺・流域再生国際フォーラム」運営協力
ARRN 及び 国際河川財団(IRF)	「18 th 国際河川シンポジウム」分科会運営協力
世界海拔ゼロメートル都市サミット	運営事務局支援、関連行事参加

平成 27 年度 収入・支出予算書
(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日)

(収入)

項目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較増減	備考
①助成金	900,000	1,000,000	△ 100,000	河川整備基金助成事業
②預金利息	30	30	0	
計	900,030	1,000,030	△ 100,000	

(支出)

項目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較増減	備考
①旅費・交通費	418,000	420,000	△ 2,000	研修会・座談会出張費
②通信・運搬費	16,000	43,000	△ 27,000	研修会資料送付
③資料・印刷費	50,000	400,000	△ 350,000	研修会資料印刷
④賃貸料	20,000	10,000	10,000	会議室使用料
⑤委託費	276,000	27,000	249,000	研修会・ホームページ制作アルバイト代、座談会速記料
⑥諸謝金	120,000	100,000	20,000	研修会・座談会謝金
計	900,000	1,000,000	△ 100,000	

※上記は助成金のみを計上。

その他の事業に要する諸費用は、日本河川・流域再生ネットワークの事務局を共同運営する「公益財団法人リバーフロント研究所」及び「株式会社建設技術研究所国土文化研究所」の共同研究「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」より支出する。